

正常圧水頭症外来（せいじょうあつすいとうしょう外来）の

ご案内

特発性正常圧水頭症とは

皆様、認知症への関心が高まっておりますが、治療可能な認知症があることをご存じですか？

以下のような症状でお悩みの方がおりましたら、ぜひ当院の正常圧水頭症外来を受診ください。

- ✓ 歩きづらい
- ✓ 物忘れや記憶力が低下した
- ✓ 尿が漏れやすい

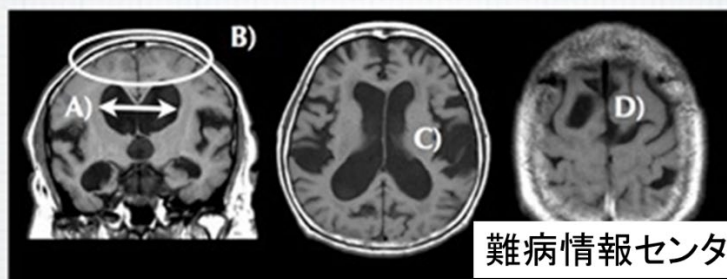
上記いずれかの症状あるいは複数の症状がじょじょに進んでいる方

- ✓ MRI や CT で脳内の部屋（脳室 のうしつ といいます）が広いといわれた方

「認知症状」「歩行障害」「尿失禁」を認め、脳 MRI や CT などでは脳の中に髄液（ずいえき）がたまっていることが確認されると、正常圧水頭症（せいじょうあつすいとうしょう）と診断されます。正常圧水頭症には、特別な原因がないもの（特発性といいます）とクモ膜下出血などにより起こるものがあります。高齢者（65歳以上）の0.5～2.9%、つまり、約31万人（約250人/10万人）の正常圧水頭症（未確定も含む）患者さんがいると言われております。当院では近隣医療機関からの紹介が多く、疑い症例に対しては入院して頂き、髄液排除試験の結果やMRI上の画像所見（下記ご参照ください）を参考の上、診断しております。

画像所見：DESH※, EVANS INDEX>30%

※DESH（くも膜下腔の不均衡な拡大を伴う水頭症, disproportionately enlarged subarachnoid-space hydrocephalus



難病情報センターHPより

治療

特発性正常圧水頭症とは、脳室(のうしつ)内で作られる髄液(ずいえき)がたまりすぎた状態で、MRI や CT で脳室が広くなります。治療は、髄液の流れを脊椎のくも膜下腔からお腹の腹腔(ふくくう)という空間へ新たに作成する、腰椎くも膜下腔—腹腔短絡術(ようついくもまくかくう—ふくくうたんらくじゅつ)という手術が行われます。ほかに脳室—腹腔短絡術(のうしつ—ふくくうたんらくじゅつ)が行われます。(下図ご参照ください) 治療のための入院期間は 2 週間程度です。

